

# 経済建設常任委員会 行政視察報告書

日 程 平成28年9月28日（水）～平成28年9月30日（金）

視 察 地 岩手県遠野市：道の駅「遠野風の丘」について（9/28）  
青森県八戸市：八戸ポータルミュージアムについて（9/30）

## 岩手県遠野市 道の駅「遠野風の丘」について

1. 視察目的 道の駅「遠野風の丘」は全国モデル道の駅に選定され、東日本大震災時には、自衛隊・救急隊・ボランティアの方々の支援拠点として機能を発揮している。東北一寄りたくなる道の駅の理由と災害時における後方支援施設としての背景について本市の参考とするため選定した。

### 2. 視察事項 (1) 開駅の経過

遠野市は「遠野物語」や「民話のふるさと」として知られており、観光やレジャーなどで訪れる人が年々増加をしていた。また、全国的に農村の中でゆっくりと過ごす「グリーンツーリズム」の考え方が浸透し始めていた。

さらに、個人での旅行が増える中、ドライブ途中に休憩し、地域観光やイベント情報をはじめ、地場産品などを提供する施設が求められていた。そのような状況を踏まえ、平成10年度に開駅し、地域住民の交流、地場産品等の展示販売、さらには道路利用者に対する観光やイベントなど地域情報の提供の場として、情報交流センター、各種催事が出来る多目的ホール、隣接する公園を一体的に整備した。



担当職員より説明を受ける

### (2) 施設の概要

全体面積：17,756㎡

施設面積：1,296.80㎡

総事業費：1,112,014千円

オープン：平成10年6月30日

道の駅認定：平成11年8月27日

運営主体：一般社団法人遠野ふるさと公社

駐車場：178台（普通161台・大型14台・身障者用3台）

情報交流センター（休憩ホール・物産展示ホール・レストラン・インフォメーション）

（3）施設の特長

- \*インフォメーション：職員が常駐して観光情報や道路情報を案内。（ふるさと納税や移住促進にも活用。）  
年間約5500件以上の対応をしている。
- \*休憩ホール：無料で開放しているスペースでゆっくりとくつろぐことができる。遠野市街が一望できるテラスが自慢。
- \*風力発電施設：風車
- \*トイレ：24時間利用でき、美化に努めておりその清潔さはほかに類を見ない。

（4）施設の利活用者状況

年間利用者数150万人として目標を設けて、平成16年度以降100万人位で推移していたが、震災後とくに修学旅行がこなくなったため低調な推移をしている。

（5）その他：東日本大震災時の後方支援拠点としての働きについて

自衛隊・救急隊の支援拠点として機能を発揮。これを受け、岩手県広域防災拠点配置計画の広域防災拠点に位置付けられ、ベースキャンプ、備蓄など高度な防災機能を分担。

主な活動として

- \*支援物資の運搬、車輛の活用
- \*トイレ
- \*食料供給
- \*自衛隊・消防隊・ボランティアの方々の後方支援拠点
- \*安否情報の縦覧
- \*関連施設との連携による支援

復興に向け、沿岸被災地の海産物の販売所を新設し、岩手県内の道の駅で共通商品を開発した。

主な活動として

- \*岩手県復興キャンペーン
- \*首都圏での三陸商品販売
- \*三陸応援フェアの開催
- \*内陸部と沿岸部をつなぐ商談会
- \*沿岸水産業者のテナント入店

### 3. 視察先対応者

遠野市環境整備部プロジェクト担当部長：佐藤 浩一 様  
地域開発戦略推進室主幹：菊池 太一 様  
主査：赤石澤 進 様  
遠野ふるさと公社 常務理事：菊池 昌弘 様  
遠野市議会事務局 次長：佐藤 邦昭 様  
東北「道の駅」連絡会 事務局長：鑑 啓記 様

### 4. まとめ

遠野市の担当者は、道の駅のつながりで当市の「ららん藤岡」に視察に来られており、高い評価をされておりました。それはそれとして今回の委員会施設目的について考察をしたいと思えます。

まず、施設ではインフォメーション機能の充実があげられます。職員が1.5人体制で案内をしており、市内観光施設や道路状況の情報、近隣市町村へのアクセスのほか、宿泊斡旋、市内イベント等のチケット販売なども行っているとのこと。このことを持って「ららん藤岡」との比較にはなりません。情報発信の拠点としての役割を検討してもいいのではなかろうか。

次に、広域防災の拠点として位置付けられ、ベースキャンプ、備蓄等の防災機能を分担しているとのことでもあります。防災情報機能の充実を図るには、衛星放送の活用なども検討する必要がある。また、必要最小限の発電機、非常用電源を備えておくことも必要であるとの実体験からのアドバイスをいただいた。

遠野市による被災地後方支援活動は、自治体間の連携による新たな災害支援モデルを提示した。先駆者である遠野市を視察して得た活動の仕組みを伝えなくてはならない。交通の要衝にある藤岡市としては、災害被害の少ない時には、大規模で広域にわたる被害が発生した場合の広報支援拠点としての役割を担うべきと提言したい。近年は、ゲリラ豪雨や広島県の土砂災害、長野県の御嶽山噴火、熊本地震など予測できない大災害が頻発している。一刻も早い体制づくりが求められている。



## 青森県八戸市 八戸ポータルミュージアムについて

1. 視察目的 八戸ポータルミュージアム「はっち」は、八戸市中心市街地地域観光交流施設として、中心市街地の空洞化や商業機能の低下が懸念する中において、人々が集い、にぎわいのあふれる空間に再生するために整備された。この八戸ポータルミュージアムの果たす役割と、現況について本市の参考とするため選定した。

### 2. 視察事項 (1) 開館の背景と目的

八戸市の中心市街地は、八戸城を中心に形成された城下町であり、歴史と文化の息づく街として、古くから活況を呈する街並みが発達してきた。しかし、全国的に中心市街地の空洞化や商業機能の低下が懸念される中において、八戸市においてもそれは例外でなく、中心市街地を八戸市の「顔」にふさわしい、人々が集い、賑わいのあふれる空間に再生するために、(仮称)八戸市中心市街地地域観光交流施設として整備を始めたものである。新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで中心市街地と八戸市全体の活性化を目指すことが目的である。

### (2) 施設の概要

建物のコンセプト：「はっち」は八角形の中庭を中心に、八戸市の中心街の特徴である路地、横町のような回廊や、広場のような空間があり、八戸市の魅力を再発見しながら、各所で観覧や活動、ショッピングや飲食、休憩を楽しめる立体的なまちとして造られている。

展示のコンセプト：八戸市の見どころや魅力をわかりやすく紹介し、ここから各フィールドに誘うポータル(玄関口)としての展示である。また、展示作品等は市民作家や市民学芸員により制作されており、八戸市の資源とともに、八戸市の誇りとして伝えている。

面積：建物敷地 3,387㎡

延床面積 6,463㎡

建物構造：鉄筋コンクリート造(免震構造)

建物規模：地上5階 高さ23.4m

用途：集会場

管理者：八戸市

運営組織：施設運営組織24名

(企画運営グループ9名・総務経営グループ13名)

### (3) 自主事業の内容及び展開

\* 会場所づくり：誰でも気軽に立ち寄れる場、ひとが集いコミュニケーションが生まれる場、地域の文化に触れられる場を作る。

\* 貸し館事業：シアターやギャラリー、多目的スペースなど様々なスペースを設け、まちを元気にする活動をサポートする。

\* 自主事業：賑わい創出、文化芸術、ものづくり、観光の分野で、地域の資源を活かした活動を展開する。

① 中心市街地の賑わい創出事業

② 文化芸術の振興

③ ものづくりの振興

④ 観光振興・フィールドミュージアム推進事業

市民とつくる事業、産業、観光振興のためのクリエイティブな事業。そして、そこに集まる人々のコミュニケーションがまちを動かす力を生み出していく。

### (4) 成果と今後の課題

平成 23 年 2 月にオープンした八戸ポータルミュージアム「はっち」は市民が何回も来て楽しめる施設として整備された。新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図りながら、中心市街地と八戸市全体の活性化するためのコアである。現在は、通行量が中心市街地で 30% 増え、「はっち」前では 90% 増加している。来館者は、平成 27 年 6 月には 400 万人を達成した。元気が出てきた八戸市は、大型空港ビル再開発事業や、公園に屋根を整備する事業など様々な施策を進めようとしている。

しかし、運営面から観ると、歳入は施設利用に伴う使用料が半分以上を占めるほか、自主事業の実施にあたって補助金、助成金など財源確保に努めている。一方歳出は、維持管理費経費のほか、多様な自主事業の実施経費、イベントの企画運営及び貸館受付やサポートなどを賄う人件費が主なものである。歳入約 2,900 万円に対して歳出約 2 億 8,400 万円となっており、一般財源から約 2 億 5,500 万円を充当しているが、施設の目的から施設使用料を高く設定することや、事業を減らして事業費を抑制することを優先しないで事業の実施を第一義に考え、その実現に努めるということであるが、今後の課題であろうと考えられる。

### (5) その他：中心市街地活性化計画における「はっち」の位置づけについて

\* 八戸市の玄関口

\* 地域の資源を活かす

\* 市民とともに創りあげる

\*まちなかを回遊してもらう

### 3. 視察先対応者

まちづくり文化スポーツ観光部

八戸ポータルミュージアムはっち館長：佐々木 結子 様

八戸市議会事務局庶務課

主査：尾崎 勝 様

### 4. まとめ

中心市街地の空洞化が進行している本市とは比較のしようもないが、商圈人口が60万人規模とも云われる中心都市が、オール八戸として本気で頑張っている姿を見て、特にソフト面において、非常に高い戦略思想を構築されていることを感じた。それらが「はっち」の様々な仕掛けに生かされ、大きな集客を誘引している成果だと言える。本市においては、先進地の核心部分を精査分析して状況に合致したまちづくりの基盤となる方策を考えることも必要ではないだろうか。



以上の通り報告します。

平成 28 年 11 月 1 日

経済建設常任委員会

委員長 橋本 新一

副委員長 丸山 保

委員 湯井 廣志

窪田 行隆

茂木 光雄

針谷 賢一

隅田川徳一